

上書き

2025. 2. 3

幼稚園児、小学生、そして中学生と、日常的に接している。接するたびに、新たな発見のようなものがある。それぞれおもしろい。人を見るときに、先入観や固定観念を持たないことが重要である。これらをどれだけ排除できるかによって、人の見方が変わってくる。

そもそも、先入観や固定観念は、第一印象や最初の出来事、エピソードに影響されるものである。あることが起きる。そのときに、この人はこういう人なんだとインプットされる。一度入ったものは、なかなか書き換えることができない。上書きがされない。そのため、ずっと、あの人は、ああいう人となる。

あのときは、こうだった。しかし、今回のことでは、こういう一面もあった。このようなことを積み上げていければ、人の見方は変わってくる。人は、そんなに一面性の生き物ではない。いろいろな面を持ち合わせている。

たぶん、日本人の傾向だと思うが、一つの言動で、その人を判断してしまう。言動＝人格のように思ってしまう。互いに、そのことがわかっている。だから、こんなことを言ったら、こんなふうに思われるという不安から、言いたいことも言えない人になってしまう。意見を言って否定されると、自分が否定されたように思ってしまう。

ある意見を言ったとする。それは、その人の一つの意見であり、その人のすべてではない。そのことがわかっているれば、一つの意見を否定されても、自分が否定されたわけではないと思える。だから、また次の意見、違う意見を言うことができる。

人を様々な方向から見る。すると、その人のいろいろな面が見えてくる。人は、そんなに完璧な存在ではないだろう。強みがあれば、弱みもある。その人のことがわかる出来事やエピソードがある度に、上書きしていくべきである。

大人でもそうなのだから、子どもであれば、よりいっそう、あらゆる角度から、その子どもを見なければならない。子どもは、当然、未熟な存在である。同時に、可能性に満ちた存在である。日々、成長を続けている。それに合わせて、どんどん上書きしていくなければならない。

一面的な見方、先入観、固定観念などは、子どもの健やかな成長を阻害するものとなる。子どもと接する大人は、そのことを肝に銘じておく必要がある。子どもと接していると、こちらが教えられることが多い。子どもの可能性というものは、決して侮ることができない。これからも、上書きの作業が忙しい日々が続く。